

# 名古屋文化学園保育専門学校 学校関係者評価者及び評価・意見

(令和7年度自己評価に基づく)

## I 学校関係者評価 評価者

### 【業界団体】

公益社団法人 名古屋市私立幼稚園協会 前会長  
國府谷 俊盛 先生 (旭キンダールの丘幼稚園園長)

公益社団法人 名古屋民間保育園連盟 常務理事兼事務局長  
稲垣 伝三 先生 (オアシスこども園園長)

### 【他校、または他の教育機関兼務の本校非常勤講師】

名古屋短期大学非常勤講師  
笠木 厚憲 先生

名古屋外国語大学非常勤講師  
桑原 恒和 先生

### 【卒業生】

平成14年度第2部卒業生  
本多 伯舟 先生 (社会福祉法人 清涼会 理事長)

平成27年度第2部卒業生  
伊藤 直 先生 (幅下幼稚園 園長)

## II 各項目の学校関係者評価・意見

### 項目1 教育理念・目的・育成人材像

・項目1について、全般的に高い評価ができる。

1. 創立者の教育理念を具現化するために、女性の自立を理念の核とし、本校の目的である幼稚園教員、保育士の養成のため様々な機会、場面、ツールを利用し学内外に「理念」を周知させている。単なる養成校としての教育課程を踏まえるだけではなく、女性の自立を基軸に職業教育の重要性を明確にしている。また、各方面からの意見を幅広く求め、現代社会が求める人材を把握し、教育目標の適正な方向づけに努力している。学生の生活スタイルが多様化している点にも注視し、就業に対する意識付けへの対策も怠っていない。また愛知県実習連絡協議会・愛知県保育系学生就職連絡協議会にも積極的に参加し、施設の求める人材像を模索することは特筆すべき点である。
2. 創設者が提唱された教育理念が現在も誠実に継承され、ホームページや学生要覧をとおして

広く周知されていることは、学校運営の根幹を支える大切な取り組みであり、高く評価したい。愛知県実習連絡協議会や保育系学生就職連絡協議会等への積極的な参加をとおして、保育現場のニーズを多面的に把握し、将来構想に結びつけようとする姿勢が伝わってくる。社会の変化に柔軟に対応していくという課題認識も明確であり、継続的な取り組みに期待したい。学校主催の教育・保育実習反省会に加え、保護者懇談会を実施して直接理念を伝える機会を設けたことは成果として評価したい。今後も幅広い関係者との共有が続けられることを期待する。

3. ホームページやガイダンスなどを通して創設者の理念・幼稚園教諭、保育士の養成を学内外で周知させている。愛知県実習連絡協議会・愛知県保育系学生就職連絡協議会に参加し積極的に保育教育現場のニーズを把握しようとしていることは高く評価できる。引き続き社会ニーズの変化に対応できるよう情報収集に努めていただきたい。
4. 創設者の教育理念を継承する姿勢から、本校独自の特色を打ち出せている事に大変な意義を感じる。又、バランスの取れた保育者を育成すると言う目標についても本校で働く教職員一人一人にも研修会等を通してそれは明確に伝わっており、責任ある保育者を育成する教育機関としての指標にブレを感じさせない。例えば卒業式に於いては、卒業する全ての学生と出席した教員に対して、理事長加藤紳一郎先生が現代語訳を行った福澤諭吉による「女大学評論 新女大学」が配られた事からもそれが分かる。
5. 保育施設の多機能化など、社会ニーズが多様化してきているので、引き続き情報収集に努めるとともに、それに基づき教育をすすめてもらいたい。
6. 創設者加藤かつ氏の教育理念を継承し、「子どもの目線で物事を考えることのできる保育者の育成」及び「社会人としての自立」を大切にされている点は、現在の教育・保育現場においても大変重要であると感じる。私立幼稚園の園長として現場に立つ中에서도、専門職として学び続けながら、自立した保育者を育成することの意義を強く感じており、卒業生としても心強く感じている。教育・保育実習反省会や各種懇談会等を通して、教育保育現場の声を継続的に把握し、教育活動や育成人材像に反映しようとする姿勢が評価できる。教育・保育現場が大きく変化する中においても、現場のニーズを踏まえながら、子どもの育ちに丁寧に向き合うことのできる保育者の育成を、今後も大切にされることを期待したい。

## 項目2 学校運営

・項目2について、全般的に高い評価ができる。

1. 運営方針を学内関係者に周知徹底しており、各部署がそれをもとに組織整備され円滑に機能していることが確認できる。人事、財務における諸規定の整備もされ、教職員が安心して勤務できる体制がある。昨今とくに厳しく問われるコンプライアンス体制、情報公開体制の整備が学園の内部外部を問わず、なされている。情報のシステム化も時代に則して整備され、ホームページ、SNSなどからの発信を含め各業務の効率化が図られている点も特筆すべき点である。ネット環境の進化も日進月歩の時代となり、危機管理を含め常に管理監督を怠ることのないように運営されることを望む。また、昨今の異常気象などへの対応など危機管理についても想定外を想定することが必要な時代となりその取り組みに注力されたい。
2. 職員会議を週1回の定例として設けることで、意志決定の迅速化と情報共有が図られている点は組織運営として適切と感じる。欠席者への議事録配布や授業との重複回避など、参加しやすい環境づくりの工夫が見られる。授業出欠管理システムのクラウド化については、業務効率化とともに、保護者が学生の出欠状況をWebポータルで確認できる体制となっており、学校・保護者間の連携強化にも寄与していると評価できる。全教職員が新システムを使いこなせるよう、継続した研修・サポートに取り組まれることに期待したい。地域社会に対する

コンプライアンス体制については、業界（教育保育現場）向けの対応は整備されている一方、地域社会に向けた組織的な体制整備が課題として挙げられており、委員会等の設立も含めた具体的な検討が進むことを期待する。

3. 運営組織がしっかりしており、円滑で効率よくこなされているのが確認できる。SNS による発信が積極的になされており、教育活動の様子が十分に把握でき高く評価できる。
4. 幼稚園教諭・保育士の養成を目的とする運営方針による事業計画の策定に関して、例えば授業内容、教員の選出、配置に関しても、それがとても効果的である上に、各世代の学生側のニーズにも沿った、よく練られたものである事に気付く。例えば教員の選出に関しても、私が入学式で初めて紹介された若い新任の先生は、私と話の最中でも、何の躊躇もせず、スマホを取り出し、メールをチェックする事に私は正直、あれ？と思ったが、生まれた時からスマホと共に成長して来た世代ならではのなごさと思ひ、保育の教育現場としてつい経験豊かな教員を揃えがちな所を、敢えて学生に近い世代の教員も配置する本校の懐の深さに感銘しました。それは、いつまでも昭和の常識や価値観で、現代の学生を判断してはいけないと言う事を理解しているからだと思われる。
5. 情報公開について、ホームページや、学生に適した SNS を活用した情報発信が頻繁になされており、教育活動の様子が十分に把握でき、高く評価できる。業務効率化に関しては、AI など新たな技術の活用により、より一層すすめてもらいたい。
6. 教育理念の一つである「社会人としての自立」や「女性の自立」を支える観点からも、産前産後休暇や育児休業等、多様な働き方に対応できる規定整備を継続されている点は評価できる。ホームページや SNS 等を活用し、教育活動を積極的に発信している点が評価できる。また、出欠管理システムの導入やクラウド化等、業務効率化を進めながら、教職員が学生支援や教育活動に力を注げる環境づくりを進めている点も重要である。今後も、保育者養成校としての学びや教育活動の魅力が、社会により伝わっていくことを期待したい。

### 項目 3 教育活動

・項目 3 について、全般的に高い評価ができる。

1. 教育理念に沿った教育課程の編成・実施が、適正な学科配置、キャリア教育、関連分野企業との連携などを通して展開されている。活動評価も各方面から頻繁に実施され、その改善が適正に実施されている。教職員の資質向上も偏りがなく配慮する姿勢も見られ、充実した研修体制で実施されている。教育、保育施設が多様化するなかで、教育・保育の現場も様々な対応を求められる時代となり、現場からの視点での教育方法の研究を進める体制に期待できる。様々な社会経験を経て入学してくる学生も多いなか、それぞれの実態に合わせた学業生活ができるよう柔軟に対応しようとする姿勢に共感する。学生の視点からの評価をアンケート方式で実施している点も評価できる。
2. 教育活動全体として高い評価点が維持されており、これまでの継続的な取り組みの成果が表れている。教育・保育実習反省会を年複数回開催し、実習園から現場の声を聞くことのできる環境を整えていることは、現場との連携という点で重要な取り組みである。教職員研修については、全国保育士養成セミナーや実習指導者認定講習への参加を継続し、最新の情報把握に努めていることは評価したい。一方で、研修参加に偏りが生じているとの課題認識も示されており、経験の短い教職員や参加の少ない教職員が優先的に研修機会を得られるよう、組織的なサポートが進むことを期待する。学校関係者評価の活用については、評価を活用検討委員会で議論する体制は整っているものの、評価点が「3」にとどまっており、改善への具体的なフォローアップを一層強化されることに期待したい。専任教員確保については、現在は基準を満たしているものの、欠員時の確保困難という中長期的な課題が見通されている。

紀要への投稿や学会参加を通じた活字業績の積み上げを組織的に推進していくことが重要であり、計画的な取り組みを続けてもらいたい。

3. 養成課程に基づき教育理念を反映させた授業科目を編成しており、実践的内容を多く取り入れているのは高く評価できる。実習現場で経験した意見や非常勤講師との情報交換により、現場により活かせるカリキュラムを目指す体制が整っている。
4. 教育活動についての本校の特色、校風の一つとして、それは実習、実践を重んじると言う姿勢であり、実習前のガイダンスは勿論、実習後の各学生の感想、意見を拾い上げるシステムがしっかりと構築されており、この徹底した現場主義こそが自ずと本校の文化として根付いている事を確認出来る。
5. 授業に保育現場での実践的内容を多く取り入れていることは、大変高く評価できる。保育現場に求められる役割は多様かつ拡大しているため、今後も現場との連携をふかめるとともに、実習以外にも保育現場での体験をつめるよう取り組んでもらいたいと思う。
6. 教育理念を授業科目へどのように反映していくかを継続的に検討されている点は、質の高い保育者養成において大変重要であると感じる。知識や技術だけでなく、「子どもの目線に立つ」という学校の理念が、日々の授業や実習を通して学生に深く伝わっていくことを期待したい。実習反省会や実習園との情報交換を通して、現場との連携を大切にしながら教育活動を進めている点が評価できる。教育・保育現場が多様化する中で、現場の実情を理解すると同時に、子どもの育ちを大切にした保育について学生が学びを深められるよう、今後も養成校と現場が協働していくことを期待したい。学生の資質や背景が多様化する中で、教職員・非常勤講師が連携しながら、チームで個別支援を行おうとしている点は大変意義深い。現在の保育者養成においては、一人ひとりに応じた丁寧な支援がますます重要になっており、今後のさらなる充実を期待している。教職員の研修参加や学会活動等を通して、継続的に専門性向上に取り組まれている点が評価できる。教育・保育を取り巻く環境が変化する中で、養成校教員自身が学び続ける姿勢は、学生にとっても大きな意味を持つと感じる。

#### 項目 4 学修成果

・項目 4 について、全般的に高い評価ができる。

1. 専門職への就業率向上を目指し、就職後の卒業生へのフォローも適切に行われている。単位取得が困難な学生への学習支援、生活指導、カウンセリングなども充実させ、退学率の低減をはかり、卒業、就職へ導いている。就職先の施設訪問による現場教員の声を聞き取るなど、卒業生の社会的評価を把握しようとする姿勢は、今後の学校、施設からの評価も高まる要因になると確信する。人材活用の点から長期履修コースや夜間部は、幼稚園、保育園にとっても望ましい制度であり是非継続を願うものである。
2. 専門職への就職率が高い水準で維持されていることは、本校の教育の質を示す重要な指標であり、評価したい。クラウド型の出欠管理システムを活用し、学習支援・生活支援を多角的に進めることで退学率の低減を図っていることは着実な取り組みである。入学後早期の学習支援強化という課題も明確に示されており、引き続き個別対応の充実に努めてもらいたい。就職1年以内の離職者が一定数見受けられるとの課題については、就職活動段階から本人の状況や希望を丁寧に把握し、長く保育現場で活躍できる人材の育成へとつなげていただきたい。保育士不足が社会的課題となる中、潜在保育士の開拓にも積極的に寄与されることを期待する。
3. 専門職を生かした職場への就職率が高く維持しているのは非常に素晴らしく、評価できる。単位習得困難な学生への支援や苦手科目を専任教員が個別指導することで退学の低減を図り卒業へのサポートがしっかりできていると思う。卒業生・就職園との連携により現場の声を

- よりリアルにそして在校生の就職活動の参考になり就職率の向上につながっていくと思う。
4. 学生による専門職、もしくは専門性を生かした職場への高い就職率の割合が維持されている事について大いに称賛する。又、長きに渡る本校の誠実な教育活動により、この分野に於ける本校の教育姿勢に対する信頼の厚さをよく耳にする。その為、本校に勤める教員として学校と卒業生へのこの期待を裏切る事の無いよう気を付けている。
  5. 幼稚園・保育園などの専門性を有する職場へ、高い就職率を維持できていることは大変高く評価できる。就職先や実習先の園と連携が取れていることは、高く評価できる。また、保育補助アルバイトの斡旋は、学生が保育現場を体験でき、それにより就職後の早期退職を防止できるので、さらなる推進をお願いしたい。
  6. 専門職への高い就職率を維持している点が評価できる。現在の教育・保育現場では、就職後の定着や継続的な成長支援も重要な課題となっているため、就職ガイダンスや卒業後支援等を通して、学生が長く専門職として活躍できる力を育んでいかれることを期待したい。

## 項目5 学生支援

・項目5について、全般的に高い評価ができる。

1. 就職、進学に関する支援体制、在学中のスクールカウンセラーによる相談体制が充実している。学生の健康管理、生活環境への配慮、保護者、卒業生に至るまでのきめ細やかな対応体制充実にも留意され、それに基づく安定した学生生活の様子がうかがえる。特に昨今の経済事情から、奨学金を受ける学生も増加していると拝察するが、学園独自の奨学制度があることは心強い。課外活動や生活支援の体制も充実しており学生生活に幅を持たせる効果となっている。職業体験という視点から中学生、高校生に対する門戸開放を推進する体制があり、将来、幼稚園教諭、保育士を目指す生徒にとって良き学びの場となろう。
2. 就職支援については、昼間部・夜間部それぞれに対応した就職ガイダンスを計画的に実施し個別の進路相談にもきめ細かく対応している点は高く評価できる。就職委員会の活用により、さらなる連携強化が進むことを期待する。スクールカウンセリングについては、相談日を月4回設け、担任・関係教職員との情報共有体制を整えていることは重要な取り組みである。一方でカウンセリングが必要な学生が相談室への入室を躊躇するケースがあるとのことであり、学生が心理的障壁なく相談できる雰囲気づくりをさらに進めてもらいたい。保護者連携については、授業出欠管理のクラウド化により保護者が Web ポータルでリアルタイムに確認できる体制は先進的な取り組みとして評価したい。成年学生の保護者への対応の難しさは今後も丁寧に検討されることに期待する。卒業生の再教育については、教員免許更新制廃止以降プログラムが少なくなっているとの現状について、地域の保育者を対象とした再教育機会の創出に積極的に取り組まれることを期待したい。
3. 就職・進学に関する支援体制、スクールカウンセリングなどの学生相談の体制がしっかりできている。近年カウンセリングを必要としている学生が増えている傾向にあるので、今後も体制強化に努めていただきたいと思う。学生の経済的支援、奨学金制度が充実していて非常に良いと思う。
4. 常日頃から学生から本校の学生支援に関して、それが手厚いものであると聞く。又、卒業し就職した元学生を定期的に学内に招き、絶えず変化していく保育現場の情報を収集し、把握し、その知識の更新を行っている。その為、卒業後も学生は、学校と厚い信頼関係を築いており、何か現場で行き詰った時など、いつでも相談に乗ってくれる、いつでも帰って来る事の出来る本当の意味での母校である事を私は目撃している。
5. 学校独自の奨学金制度を整備など、学生への経済的支援は高く評価できる。教育環境が整っていることは、高く評価できる。保育現場にも ICT 機器の導入がすすんでいるので、今後も

それに合った環境を整えてもらいたいと思う。

6. スクールカウンセラーによる相談体制や、保護者とも連携できるクラウドシステム等を活用しながら、多様な学生への支援を行っている点が評価できる。学生を学校だけで支えるのではなく、関係者と連携しながら支援を進めていくことは、現在の学生支援において大変重要であると感じる。「卒業生オンライン相談室」やホームカミングデイ等、卒業後も卒業生を支える取り組みは大変意義深い。卒業生としても、卒業後につながり続けられる場があることは心強く感じており、今後も継続・発展されることを期待したい。中学・高校への出張授業等を通して、保育職の魅力を発信している点が評価できる。保育者不足が社会的課題となる中で、保育職の意義や魅力を次世代へ丁寧に伝えていく役割は、養成校としてますます重要になると感じる。

## 項目6 教育環境

・項目6について、全般的に高い評価ができる。

1. 附属幼稚園での実習はもとより、学内外、海外での実習プログラムが用意されている点は特筆すべきことである。教育機器備品の充実、多様な学習環境の整備、防災体制など環境整備に配慮がある。図書の整備にも注力されている。多くのリソースがある中、書籍離れが進むが絵本をふくめ幼児にかかわる者にとっては、書籍に親しむことに意義があり評価できる。特に、自然災害が国内において頻繁に報道される昨今、学生の安全はもとより教職員の心構えが適切な対応へつながることを十分に認識されている様子がうかがえる。
2. 附属幼稚園と連携した基礎実習の実施やオーストラリア保育実習ツアーの機会提供など、学内外を問わず幅広い学習環境が整えられていることは素晴らしい。実習施設との連携についても愛知県保育実習連絡協議会をとおして十分な体制がとられていると感じる。施設・設備については、各教室の映像・音響機器の老朽化に対して順次修理・更新を進めているとのことであり、引き続き学生にとって学びやすい環境の維持管理を継続してもらいたい。防災体制については、年1回の避難訓練実施や飲料水の備蓄など一定の取り組みが行われているが、全専任教員・非常勤講師・学生が合同で実施することは困難な状況とのことである。今後、全員が避難経路を把握できるよう図面の整備・掲示に加え、非常食の備蓄強化や防災意識の向上に向けた取り組みが進むことを期待する。
3. 学内外・海外と幅広い保育実習の環境が整えられて、教育体制の水準の高さが窺える。
4. 昨今の学生に対して、より視覚的に、映像も取り入れての授業が効果的であり、その為、教員が教室にPCを持ち込むか、あるいは常備してあるPCと共に授業を行う事が必要となった。その点を本校は十分に理解し、設備投資も行っている。図工室に於いても制作時に作品の映像を学生に提示する事は、とても効果的であると考えている。
5. 大規模災害の頻発や公共交通機関の運休による帰宅困難等が懸念されるため、十分な非常食の備蓄に引き続き努めて頂きたいと思う。保育現場では、タブレットなどの新たなICT機器の使用も増えているので、パソコンのみならずそれにあつた設備をハード、ソフトとも整えて頂きたいと思う。

## 項目7 学生の受入れ・募集

・項目7について、全般的に高い評価ができる。

1. 高等学校、ハローワークなどへの情報提供や、各種メディアを使った情報発信を充実させている。リカレント教育にも力を入れている点は昨今の社会情勢に即している。入学選考は適正公平であり、納付金も妥当で奨学金制度のさらなる充実を目指している点も学生は心強い。
2. 広報専門職員を配置し、愛知県内および近隣県の高校訪問・会場ガイダンスを積極的に実施

するとともに、SNS や公式ブログを活用した情報発信を強化していることは評価できる。愛知県で唯一の文部科学大臣・厚生労働大臣指定の幼稚園教員養成校・保育士養成校という本校の強みを、今後も積極的に発信し続けてもらいたい。18 歳人口の減少という社会的背景の中で、夜間部（第 2 部）の入学者確保が課題として挙げられている。ハローワークを通じたリカレント学生の募集にも力を入れており、多様な学習ニーズに応えようとする姿勢は重要である。今後も中高生世代に対して保育職の魅力ややりがいを伝える取り組みを継続・強化されることに期待したい。

3. 広報担当職員による情報発信が積極的に行われており、学生募集に大きく貢献していると思う。
4. 昨今の少子化にもかかわらず、本校は絶えず一定の学生数を確保しており、それは本校への高い評判と理事長先生による専門分野に於ける誠実な研究活動、そして多くの高等学校への熱心な広報活動などが実を結んでいるものと思われる。
5. 広報担当職員による高等学校への情報発信は、保育職に関する正確な情報提供に寄与していると思われ、素晴らしいと思う。少子化がすすみ、学生募集は大変困難であると思うが、引き続き高校生に届く情報発信に努めていただきたいと思う。

## 項目 8 財務

・項目 8 について、全般的に高い評価ができる。

1. 財務状況は安定的で盤石なものと拝察する。
2. 財務状況は安定して推移しているとのことであり、理事会・評議員会による適正な予算審議 公認会計士による年次監査、ホームページでの財務諸表公開など、透明性の高い財務運営が継続されていることは高く評価したい。夜間部（第 2 部）の入学者が定員を下回っている状況については、企画広報室を中心とした広報活動の充実により、財務基盤の安定へとつなげていかれることに期待する。引き続き情報公開と適正な財務管理を続けてもらいたい。
3. 会計監査の実施、財務情報公開と高く評価できる。
4. 安定した財務状況を維持する事が出来ているのも、やはり情報公開の姿勢と公認会計士による監査などによる公明正大な教育機関である事が、その校風、文化に於いても良い影響を与えていると感じる。
5. 情報公開を行い、公認会計士の監査を実施しており、全体として高く評価できる。

## 項目 9 法令等の遵守

・項目 9 について、全般的に高い評価ができる。

1. 適正に運営されている。
2. 各法令・専修学校設置基準に沿った適正な運営が継続されていることは基本かつ重要な事項であり、引き続きの取り組みを期待する。個人情報保護については、規定の制定・学生要覧への明記に加え、オリエンテーション等での周知も実施されているとのことであるが、学生の SNS マナーへの対応に苦慮しているとの記載も見受けられる。就職後に守秘義務が強く求められる保育現場に従事する専門職を育てる学校として、繰り返しの事例提示や個別指導を通じた情報モラル教育を今後も継続されることを期待したい。評価結果の公開については、自己評価結果・財務諸表のホームページ公開は適切になされており評価できる。学校関係者評価活用検討委員会の議事録についても、今後の公表の在り方についての検討が進むことを期待する。
3. SNS に関する学生への指導をより徹底していただきたい。
4. 法令の遵守に関しても、免許状を与える教育機関として常に襟を正し適正に行われている。

5. 各法令に沿い、適正に運営されていることは、大変高く評価できる。個人情報保護の遵守は、学生が就職した後も重要な事なので、引き続き指導をお願いしたい。
6. SNS の活用が日常化する中で、学生に対する適切な情報モラル教育や個人情報保護に関する指導を継続されている点は重要である。近年は生成 AI 等の活用も急速に広がっており、教育・保育現場においても、個人情報や記録、画像等の適切な取り扱いについて理解を深めることがますます重要になっている。今後も、専門職として責任ある情報活用について学ぶ機会を大切にしていきたい。

## 項目 10 社会貢献

- ・項目 10 について、全般的に高い評価ができる。
- 1. 附属幼稚園、児童養護施設、障害者施設などでのボランティア活動が多く実践され、地域に対する貢献活動も積極的に実施されている。
- 2. 近隣の障害者施設イベントへのボランティア参加や、学内施設の地域団体への貸与など、地域に開かれた学校運営が行われていることは素晴らしい。愛知県雇用セーフティーネット対策訓練（委託訓練）の受託による公共職業訓練への貢献も地域社会にとって重要な役割を果たしていると感じる。ボランティア活動については全学生の参加には至っていないとのことであり、クラブ活動の一環としての取り組みを含め、学生の参加意欲を高める働きかけを継続してもらいたい。地域のニーズと本校ができることの接点をさらに模索しながら、今後も地域にとって必要とされる学校としての役割を担い続けてもらいたい。
- 3. 附属幼稚園、児童養護施設、障害者施設等のボランティア活動を積極的に行っているため今後とも継続していただきたい。
- 4. 学外に於ける社会貢献、地域貢献活動に関しても、開かれた教育機関としての使命のもとに学生の保育活動の実践の場として行なわれており、それは同時に各学生の人間としての成長の機会を与えるものと捉える事が出来る。
- 5. 地域社会との連携・貢献は大変重要なので、今後も継続して取り組んで頂きたいと思う。

## 全般的なこと、その他

- ・全体的に高く評価できる。
- ・創設者加藤かつ氏の教育理念を継承し、「子どもの目線で物事を考えることのできる保育者の育成」や「社会人としての自立」を大切にしながら、教育活動・学生支援・現場連携等を継続的に進めている点が評価できる。特に、教育・保育実習反省会や各種懇談会等を通して現場との連携を重視し、多様化する教育・保育現場や学生の状況に丁寧に向き合おうとされている姿勢に、保育者養成校としての責任感を感じる。
- ・知識や技術の習得だけでなく、子どもの育ちを中心に考えられる専門職を育成することが、これからの教育・保育において大切である。今後も教育・保育現場と連携しながら、子どもの育ちを大切にできる保育者を育成し続けられる学校であることを期待している。